

教育実習生を預かっていたため、実習生の大学の教授が学校を訪問され、実習生の授業を参観された時の言葉、「素敵なお子様たちを見せていただきました。(実習生に) あなた、こんな学校で実習ができてしあわせね。」▼社交辞令ではない。心から出た言葉だ。なぜなら教授は満面の笑顔と瞳だったからだ。昨日は、北勢中学校区の授業研究会。町内の小学校と中学校の先生に2年生と5年生の授業を観ていただいた▼教師は日々、授業が上手になりたいと思っている。それは、子どもに力をつけたい。そのための技術を身につけたいという願い。学校では定期的に授業を観合って、研究・研修を続ける。昨日は、校区内の学校から先生方を招いての授業研究会▼事後検討会でうれしかったのは、阿下喜が大切にしている「日常」と「挑戦」の積み上げを多くの方に認めてもらったこと。常に未完の完結を繰り返し、そのプロセスを振り返った時、重ねてきた「日常」の価値をあらためて実感する。ほめてほしいのではない。「子どもの事実」を受け入れ、素敵を共有し、また明日につなげる▼日々、未完の完結を積み上げてきた価値を、「謙虚」に語る教師集団とそのプロセスを認めていただいたみなさんには感謝しかない。教師一人の力では、子どもは育たない▼さて、授業提案をしたある教師、去年は笑顔に100点をあげた。昨日は指導主事に花丸をもらった。